

# 経営リースの取組事例

## 「青森県上北地方の畜産環境リース事例」

青森県 上北地方農林水産事務所 畜産課 技師 梶田昌裕

### ◆上北地方の概要

青森県の太平洋側に位置する上北地方は2市6町1村から構成されている。十和田湖（国立公園）と小川原湖（周辺の仏沼はラムサール条約登録湿地）という二つの大きな湖が南北に位置し、西部は八甲田連峰からなる山岳地帯、東部は台地で形成されている。気候は春の終わりから夏にかけてヤマセ（偏東風）が吹き、冷涼な日が多く、また、冬季は北西の季節風により、冷え込みが厳しくなる。

耕地面積は県全体の29.4%を占める4,680haで、最も多いシェアを占めている。耕地の内訳は、水田51.5%、畑30.8%、牧草地17.5%の順となっている。

平成17年2月現在の家畜飼養頭数は、乳用牛が11,027頭で県全体の65.2%を占めているほか、肉用牛、養豚は県内の半分以上の頭数が飼養されており、畜産粗生産額（平成16年度）は、352億円で県全体の51.1%を占め、県内トップとなっている。

このように豊かな自然を背景として畜産が盛んな地域だけに、近年は畜産経営が地域社会や自然環境に及ぼす影響が懸念されている。

そこで今回は、上北管内の水環境に影響の大きい地域において、1/2補助付き畜産環境リース事業を活用した二つの事例について紹介する。

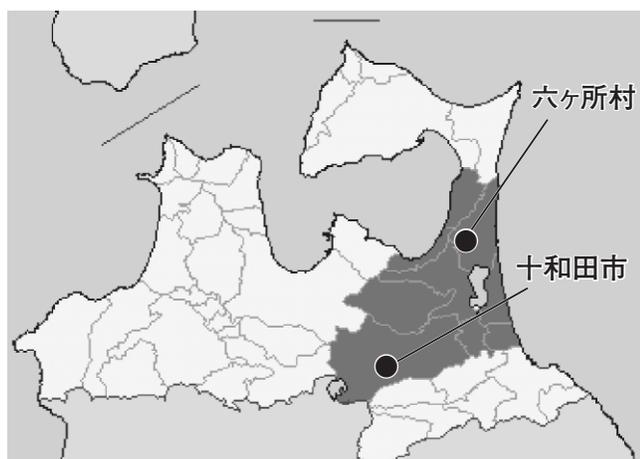


図 青森県（色の濃い箇所が上北地方）

### ◆布施圭治（十和田市）さんの例（写真1）

布施圭治さんは十和田市の南部で酪農（経産牛42頭）経営を行っており、付近には奥入瀬川支流の藤島川が流れている。以前は堆肥盤や圃場に家畜ふん尿が野積みの状態であったため、平成16年度に1/2補助付き畜産環境整備リース事業で堆肥舎（594㎡）を建設した。

堆肥は古くからの付き合いがある市内の稲作農家3戸（6ha）と稲わら交換し、そのほかタバコ農家2戸（1.5ha）にはマニュアルプレッダー1台分（6トン）を1万円で販売しているが、供給先の耕種農家側が、散布する機械を持っておらず、しかも高齢でもあるため、布施さんが散布のサービスを行っている。このほか、自らのデントコーン畑6haや採草地35haにも堆肥散布し、できるだけ化学肥料の低減を行っている。

牛床には、カッティングロールベアラーで収集した稲わら（7センチ長）を大量に敷いている。これにより牛もリラックスして休息が取れる（写真2）だけでなく、堆肥化の際には水分調整や通気性が改善され、非常に発酵しやすい状態になる（写真3）。また切り返しを頻繁に行い、耕種農家が望む良質堆肥の生産に励んでいる。本人は、堆肥舎を使用するようになってからよく発酵が進み、堆肥化作業が楽になったとっている。

牛舎のすぐ裏には小学校や民家も立ち並んでいることから、畜舎周囲の環境整備に努めているほか、特に悪臭対策に配慮している。現在、におい低減対策として生菌剤を使用しており、効果が見られている。

### ◆阿部次郎（六ヶ所村）さんの例（写真5）

阿部次郎さんは小川原湖の北部に位置する六ヶ所村庄内地区で、酪農（搾乳牛30頭）と黒毛和種の繁殖経営（40頭）を営んでいる。



写真1 布施圭治さん



写真2 豊富な敷料の中で牛も寝そべる



写真3 堆肥舎



写真4 堆肥を活用して生産したラップサイレージ



写真5 阿部次郎さん。牛舎周辺の風景を絵にするのが趣味で、県内の展覧会にも精力的に出品している。



写真6 堆肥原料

以前から堆肥の生産に力を入れており、これまで堆肥盤上でシートを使ったり、自ら建設した倉庫を使ったりして良質な堆肥を生産してきたが、飼養頭数の拡大に伴い限界を感じたことから、平成14年に1/2補助付き畜産環境整備リース事業で堆肥舎と切り返しのためのショベルローダを整備した。生産した堆肥は近所の親戚や知人の田畑に稲わら交換したり、

自作の牧草地に散布したりするなどして全量を利用している。

堆肥づくりの際は水分調整剤としておがくずや、もみ殻、わら等を大量に投入して、良質堆肥の生産に向け、努力している(写真6、7)。特に、おがくずは月に15万円ほどかけて購入し、入手が困難になる時期には遠方の津軽地方から取り寄せている。ま

た、稲わらは水分調整用としては年間150ロール程度使用していて、80ロール程度は堆肥と交換で手に入れているが、残りは6,500円／ロール程度で購入している。このように耕種農家に好まれる良質堆肥を生産するために副資材に経費を掛けているので、今後は耕種農家の理解を得ながら堆肥を販売したいと考えている。

また、生産堆肥は花の肥料としても利用し、常に牛舎の周りに花が咲いているように努めるなど、畜舎周

辺の環境美化にも力を入れている（写真8）。

### ◆最後に

どちらの農家の例も、良質堆肥を生産するために大量の副資材を投入するなど手間やお金をかけている。また、堆肥の生産のみならず、畜舎周辺の環境美化についても努力や工夫を凝らしているところが共通しており、周辺環境の保全に努めていることが印象に残った。



写真7 水分調整剤として確保しているもみ殻等



写真8 牛舎周辺を彩る花々